

学術越境プログラム Phase 2 募集要項

人間・環境学研究科附属学術越境センター

1. 趣旨

学術越境センターは、学術分野間、産官学、国際間の境界を越えた連携を目指し、そのための支援を行う組織です。学術越境の理念のもと、教育・研究両面での学術交流を推進するため、「学術越境プログラム Phase 2 (Phase 2 支援プログラム)」では、博士後期課程に在籍する大学院生の研究活動を支援します。このプログラムは、学術越境的な研究、産官学連携、国際連携が必要な研究活動に特化した教育プログラムです。審査に合格し採択された大学院生は、自ら考案した研究計画を推進するため、複数の教員のサポートを受けることができます。

2. 応募資格

博士後期課程に進学を計画している修士2回生（[M2学生枠]）もしくは博士後期課程に進学した博士1回生（[D1学生枠]）。なお[D1学生枠]での応募に際しては、前年度[M2学生枠]へ応募したものの採択されなかった学生の再応募も認めます。M2学生枠については、授業「学術越境研究計画2」履修を応募の必要条件とします。

3. 支援額

3年間で総額150万円程度 [M2学生枠]、もしくは
2年間で総額100万円程度 [D1学生枠]

4. 採択数

3名程度（[M2学生枠]と[D1学生枠]あわせて）

5. 支援期間

博士1年から博士3年までの3年間 [M2学生枠]、もしくは
博士2年から博士3年までの2年間 [D1学生枠]

支援期間は標準修業年限までの期間とします。休学している期間は支援の対象となりません。ただし、出産、育児、傷病などで研究を中断する場合には、個別の事情を考慮する場合があります。

6. 募集時期

令和8年7月10日～令和8年9月30日 17:00厳守
期間内に [ekkyo-program@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp] 宛に、タイトルを「[学術越境プログラム Phase2 応募]・学生番号・氏名」として、メール添付にて PDF ファイルで提出すること。審査結果は12月上旬に通知します。

7. 支援内容

① 学術越境研究活動実践の経済的支援^{*1}

学術越境研究を実践するための研究費として3年間で総額150万円程度 [M2学生枠]、もしくは2年間で総額100万円程度 [D1学生枠] の支援を行います。

② 指導チームの編成による研究支援

指導教員、共同研究者、学術越境センター専任教員、学術越境センター兼任教員が指導チームを編成し、採択者の学術越境研究計画の実行をサポートします。

③ 博士後期課程における生活費支援^{*2}

令和 9 年 3 月頃に予定されている京都大学大学院教育支援機構プログラム（通常枠）に応募した場合、研究科内で優先的に推薦します。ただし、学術振興会特別研究員 DC1 に採択された場合は、教育支援機構プログラムに応募できません。

なお、採択された場合は、年度末に年度報告書もしくは最終報告書を提出いただきます。また、授業「学術越境研究計画 1」や「学術越境研究計画 2」などを通じて、学術越境プログラム（Phase1 支援プログラム、Phase2 支援プログラム）への申請を計画している大学院生への自身の研究活動の紹介をお願いすることがあります。学術越境センターの活動に関するウェブサイトを通じた広報への協力もお願いすることがあります。

*1 令和 10 年度以降の学術越境プログラム実施予算は現時点で未定のため、10 年度以降の支援額については変更される可能性があります。

*2 現時点で大学院教育支援プログラムの詳細が発表されていないため、今後、教育支援機構プログラムへの応募条件などが変更となる可能性があります。これに伴い生活費支援の内容が変更となる可能性があります。

8. 申請書の内容

① 博士後期課程 3 年間の学術越境研究計画

研究の位置づけ、研究目的・内容について記述してください。とくに学術越境の観点から、研究の特色・独創的な点について説明してください。

② 申請者の専門分野と計画する学術越境研究の関連性について

申請者の専門分野について説明するとともに、連携を予定している他分野（学術、産官学、国際）と、どのように関連して学術越境研究となるのか、世界の学術越境／超学際研究（TD: Transdisciplinary Research）の研究動向についても参照していれば、明記しつつ、説明してください。

③ 計画する研究活動の準備状況（対応機関との連絡状況など）

連携を予定している他分野の研究者、対応機関との、研究計画の準備状況、連絡状況などを記述してください。

④ 修士課程入学時からこれまでの学習・研究内容と学術越境との関連

修士課程入学以降、あなたがこれまでに特定の講義（例：学術越境研究計画 1、学術越境研究計画 2）やフィールドエンカウンター（フィールド体験実習）、所属するゼミでの活動などを通して学んだこと、Phase1 支援プログラムを受けていればそれを通じて吸収したことを述べてください。またそれらで学んだことが、Phase2 の研究計画とどのように関連するのか、記入してください。

⑤ 研究費の用途とその必要性

研究費の使用時期、用途、金額とその必要性について記載してください。

⑥ 研究業績

学術論文（査読の有無）、研究発表（口頭・ポスター）、その他（受賞など）を記載してください。

⑦ 確認書、教員所見

指導教員の方は、申請者の資質、研究能力などについて、学術越境研究を行うことを踏まえて、所見を記載してください。（確認書は指導教員から直接学術越境センター [ekkyo-program@mail2.adm.kyoto-u.ac.jp] 宛にメール添付にて提出してください。）